

2025年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。

本日、名古屋学院大学は、学部生 1,609名、大学院生 18名、留学生別科生 14名、合わせて 1,641名の新しい仲間を迎えることができました。ご列席いただいた皆さまとともに、大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。御来賓の皆さま、本日は、ご多忙のなか、ご臨席いただきありがとうございます。

また、別会場にて、この式典の中継をご覧いただいておりますご家族・保護者の皆さま方、ご子息・ご令嬢のご入学に、心よりお祝い申し上げます。我々教職員一同は、ここに集う新入生たちが、本学での4年間を通して、21世紀の社会に貢献できる人財として成長できるよう、全力をあげて支援することをお約束いたします。

さて、新入生の皆さん、入学式はみなさんを歓迎するセレモニーであるとともに、大学時代のスタート地点でもあるわけですから、ここで、今一度「大学に進学した」意味を確認しておきたいと思います。皆さんが今この場に座っている理由はひとつです。それは、自分を大きく「成長」させるため、つまり、自らの可能性を大きく広げるために今ここにいるのです。このことを、今この場で、改めて心に刻んでください。

その上で、皆さんのご入学にあたり、本学の「建学の精神(けんがくのせいしん)」である「敬神愛人(けいしんあいじん)」についてお話をしたいと思います。

「建学の精神」という用語は、多くの皆さんにとっては馴染みのないものかもしれません。これは、その学校の教育の根底に流れる考えを表した言葉のことを言います。そして、キリスト教主義大学である本学の建学の精神は「敬神愛人」です。「神を敬い、人を愛する」と書きます。今から138年前の明治20年(1887年)に本学に繋がる「名古屋英和学校」を建てたアメリカ人宣教師のクライン博士が選ばれた言葉です。

「神を敬う」とは、創造主に対する畏敬の念をもつことですが、「学ぶ」という文脈に置けば、神が御造りになった我々人間は、不完全な存在であるからこそ、部分的な知識や技能を得たといって傲慢になるのではなく、さらに謙虚になって物事の真理を追究することが大切であるということになります。つまり、教わる者も、教える者も、共に謙虚でありなさい、ということになります。そして、後半の「人を愛する」とは、隣人愛、つまり他者に対して優しくあること、との意味あいを持ちます。

ただ、ここで注意してもらいたいのは、今の私の説明は、ほんの入り口に過ぎません。つまり、「敬神愛人」に向き合う序章に過ぎないのです。各学部においてみなさんは様々な専門を学んでいくこととなりますが、本大学の教育が目指すところは、この「敬神愛人」がもつ真の意味、そう、真の意味での「敬神愛人」を4年間にわたって探し求めることにあると言えます。つまり、本学が掲げる「敬神愛人」というフレーズは、昔から伝わる4文字熟語のようなクリシェ(決まり文句のような)感覚で捉えてはいけません。これから始まるみなさんの大学時代を、「敬神愛人」の真の意味を探し出す旅にさせていただきたいと考えています。そして4年後の卒業の時、名古屋学院大学で学べて本当によかったという思いが心の奥底から湧き出るような、充実した4年間にしてもらいたいと強く願います。

大学では、問題を自ら見つけ、その解法を自ら探し、さらに、得られた答えがどこまで正しいものなのかといった検証まで、すべて自らの責任で行うことになります。学びの過程は、時に遠回りに思えることがあるかもしれませんが、その遠回りこそが、本質的な理解や創造的な発想につながります。例えば、自転車に乗れるようになるためには、説明を聞くだけではなく、実際に転びながら体で覚えていく必要があります。同じように、学びも、一見すると効率が悪いように思える道を通ることによって、より深い理解・より深い気づきへとつながるのです。現代では「コスパ」や「タイパ」を重視する風潮がありますが、本当の学びには、試行錯誤や寄り道が必要です。その過程を大切にしながら、大学での学びを深めていってください。

若者の特権は「夢」を語ることです。ぜひ、自分の夢を探し、その実現にむけてチャレンジして下さい。自分を高みに押し上げるその「夢」を目指して頑張ってみてください。自分の可能性に自らリミッター(制限装置)を設ける必要はありません。先入観や未経験、過去の成績をあきらめる理由にすることはありません。第一歩を踏み出すときには、自信がないのは当然です。そうであるからこそ、若者は夢に取り組むことができるわけです。

自分の夢を見つけるのには時間がかかるかもしれません。さらに、夢はそう簡単に実現するものでもありません。その過程において、失敗を経験する場面も少なからず出てくるでしょう。しかし、失敗は恥ずかしいことでも自分を卑下することでもありません。そこにこそ、「学び」のチャンスがいっぱい詰まっているのです。「あの時、やっておけばよかった」という後悔よりも、「やってみて色々なことがわかった、今回の経験を次に繋げていこう」、というポジティブな考え方ができる若者であってほしいと思います。

さあ、みなさん、新しいステージの始まりです。

キャンパスには、皆さんと共に歩む先輩たちと、皆さんを応援する教職員がいます。

キャンパスの周りには、歴史・文化にあふれる魅力ある地域があります。

そして、キャンパスを越えたところには、皆さんが活躍する未来が広がっているのです。

皆さんの可能性は無限大です。過去の失敗や未経験を恐れることなく、自らの「夢」を見つけ、その実現にむけてチャレンジする若者になってください。

みなさんが、本学で過ごされる大学時代が、「敬神愛人」の真の意味を求める心の旅が、実り豊かに人生を生きるための、大きな礎となることを願い、入学式の式辞とさせていただきます。

ご入学おめでとうございます！

2025年4月1日

名古屋学院大学 学長 赤楚 治之